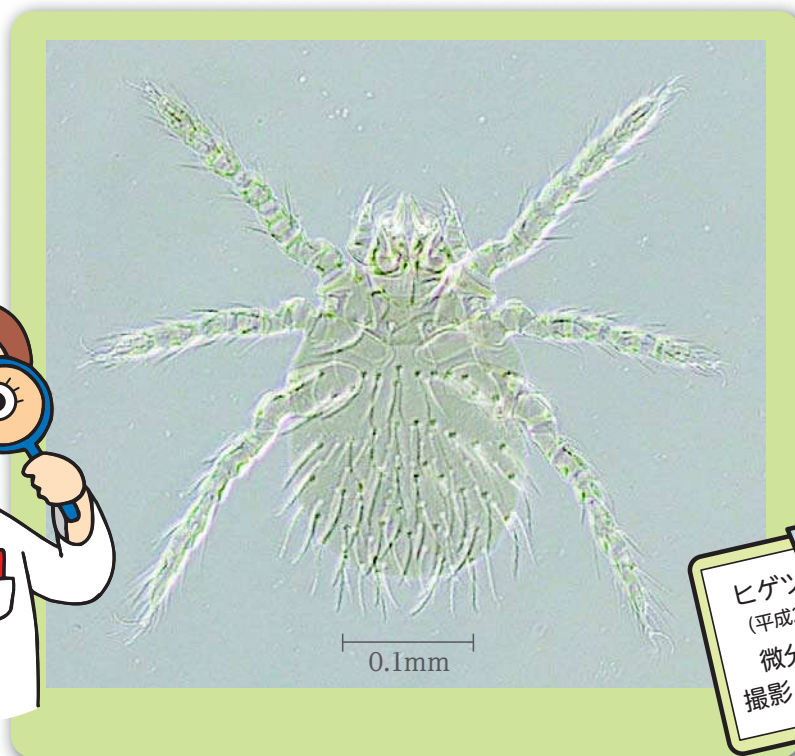


つつが虫病

疑ったら直ちに医療機関に受診を！



ヒゲツツガムシの幼虫
(平成21年4月 白鷹町採取)
微分干渉顕微鏡写真
撮影：山形県衛生研究所



つつが虫病患者の発疹(下肢)



ツツガムシ幼虫の刺し口(左大腿部)

写真：太田西ノ内病院 成田雅医師提供

山形県衛生研究所

つつが虫病とは？

つつが虫病は、病原体を有するツツガムシ（ダニの一種）の幼虫に刺されて、高熱や発疹などの症状がでる病気です。

日本のつつが虫病には、現在**6種類の血清型**が知られており、それぞれ媒介するツツガムシ種が決まっています（表）。ツツガムシごとに媒介する時期が異なるため、ツツガムシの種類によってつつが虫病に感染する時期が異なります。山形県では、患者の80%以上がフトゲツツガムシによって媒介されるKarp型つつが虫病であり、**春のつつが虫病患者が全県的に多い**状況です（図1、2）。しかし、最近になって秋のKawasaki型や春（一部は秋）のShimokoshi型つつが虫病患者が増加傾向にあるため、ツツガムシが活動する春から秋のいずれの季節でもつつが虫病に感染する危険性があると言えます。

ツツガムシに刺されると、必ずつつが虫病になるわけではありません。つつが虫病を媒介するのは特定のツツガムシ種ですし、そのツツガムシの中で病原体を持っているものは100匹に1匹程度のごく少ない割合です。また、ツツガムシは、卵—幼虫—若虫—成虫という生活環の中で、唯一幼虫の時期にだけ野ネズミなどの動物の体液を吸います（図3）。この幼虫の時期にヒトが偶然、病原体を持ったツツガムシに吸着されることでつつが虫病になるのです（**ヒトからヒトへうつることはありません**）。

なお、幼虫の体長は0.2～0.5mm程度（表紙写真参照）ですので、肉眼ではよほど目を凝らしないと見つけることができません。

表 つつが虫病血清型と媒介ツツガムシ種の関係

つつが虫病血清型	媒介ツツガムシ種	媒介する季節
Gilliam 型、Karp 型	フトゲツツガムシ	春（一部は秋）
Kato 型	アカツツガムシ	夏
Kawasaki 型、Kuroki 型	タテツツガムシ	秋
Shimokoshi 型	ヒゲツツガムシ	春（一部は秋）

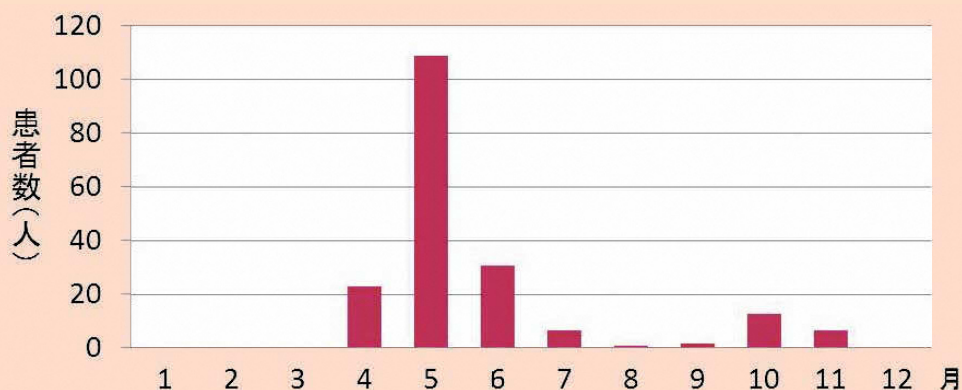


図1 月別患者発生状況（平成7～24年）

つつが虫病の症状！

発熱(38～40℃以上の高熱)、**発疹**、ツツガムシ幼虫の**刺し口**の3つが主な特徴です。

1. つつが虫病の病原体を持ったツツガムシ幼虫に刺されて5～14日頃に**38～40℃の高熱**で始まり、全身倦怠、悪寒(寒気)、頭痛、咽頭痛、関節痛、食欲不振などの「風邪様症状」が伴います。

2. 熱が出てから2～5日頃にほぼ全身にわたって粟粒大から小豆大の**赤い発疹**が現れ(表紙写真左)、ツツガムシの幼虫に刺された部位(刺し口)の近くのリンパ節が腫れてきます。

3. **刺し口**は、はじめ紅色丘疹から水疱、続いて膿疱となり、発熱して6日目頃には中央部が黒色痂皮(カサブタ)状で周囲が発赤した状態になっています(表紙写真右)。刺し口の大きさは1cm前後で、皮膚の柔らかい隠れた部分に多いため、全身をくまなく探すと刺し口が見つかります。

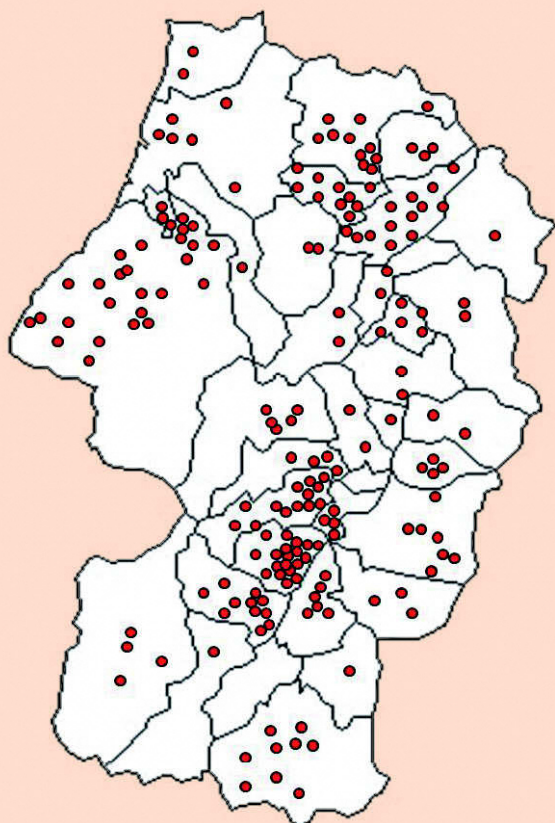


図2 患者発生地域(平成7～24年)

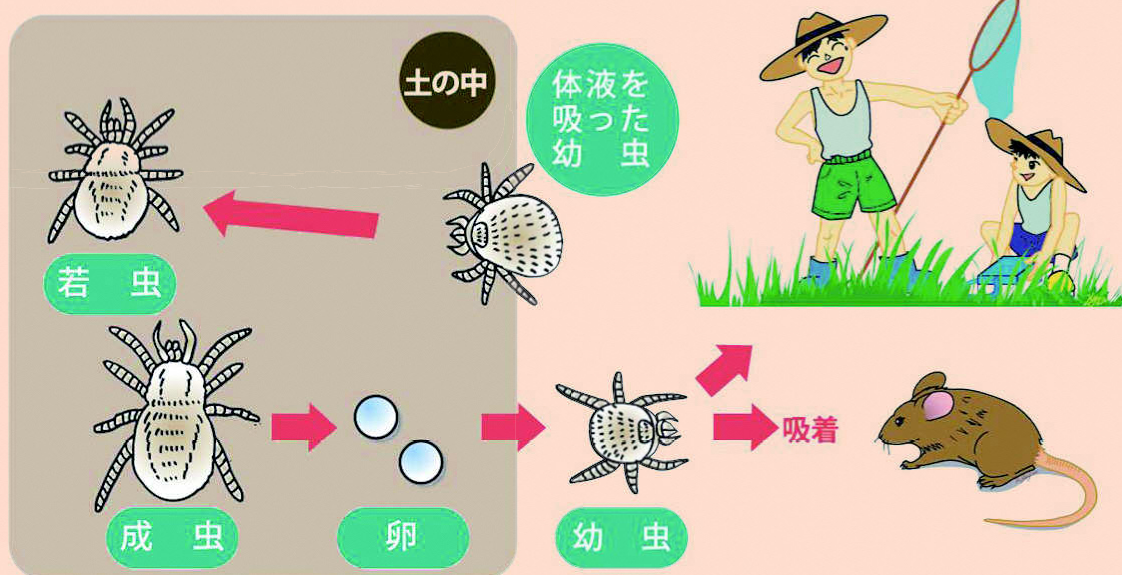


図3 ツツガムシの生活環

つつが虫病の診断と治療

つつが虫病患者は、ペニシリン系やセフェム系薬剤無効の高熱、発疹、リンパ節腫脹などの症状や肝機能異常、CRP 強陽性、白血球・血小板異常などの血液検査成績を示します。つつが虫病は適切な治療がなされないと心不全、腎臓障害、肝臓障害、肺水腫、肺炎、脳炎などの重篤な症状が現れ、死に到る場合があります。しかし、**テトラサイクリン系抗生物質が極めて有効で、早期に治療すれば完全に治る**ため必要以上に恐れることはありません。通常、投薬後 2～3 日で熱が下がり回復に向かいます。

つつが虫病の病原診断としては、血液中の抗体検査（IgG、IgM）と、血液中の病原体遺伝子検査（PCR）が行われています。

早期発見・早期治療が大切！

つつが虫病の予防

ツツガムシは、田畑、山林、やぶ、河川敷、草原などに生息しています。農作業、山菜採り、ハイキングなどでこのような場所に立ち入るときには次のような予防対策をしましょう（以下の予防策は、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、日本紅斑熱、ライム病などの他のダニ媒介性疾患に対してもある程度効果的です）。

1. 長袖、長ズボン、長靴、手袋等を着用し、素肌をできるだけ露出しない。
2. 休息するときはなるべく裸地を選び、草むらに直接座ったりしない。
3. ダニ忌避剤、防虫剤を衣服に散布する。
4. 立ち入ったあとは入浴し、吸着したツツガムシ幼虫を洗い流す。

もっとも大切なことは、春～秋にツツガムシの生息していそうな場所に立ち入ってから 5～14 日後に発熱した時には、**まずつつが虫病を疑う**ことです。そして、**すぐに医療機関を受診**し、適切な治療を受けましょう。

医療機関の方へ

衛生研究所では、6 種類の血清型に対応したつつが虫病検査（血清抗体検査、病原体遺伝子検査）を実施しております。検査の依頼・相談は下記に連絡ください。

〒990-0031 山形市十日町 1 丁目 6-6

山形県衛生研究所 微生物部

TEL **023-627-1373**